

① 「ワーク・ライフ・バランス」とは何か。

「ワーク・ライフ・バランス」とは、「仕事と生活の調和」。仕事か生活の一方を充実させるのではなく、双方をバランスよい状態にすることをいう。その取り組みは、ただ個人の労働時間を減らせばよいというものではなく、仕事の責任を果たしつつ、生活を充実させ、さらには社会全体に目を向けたもの。

○ワーク・ライフ・バランスの取り組みが目指す方向

- **経済状態**・・・正社員以外の働き方の増加により、自立が困難な人々に対するもの。
- **労働環境**・・・長時間労働をせざるを得ない労働者と、パートタイムなどの短時間労働をする人々の、労働者の二極化。長時間労働により家庭・地域への参加が難しい。短時間労働により家庭・地域への参加はできるが、収入に心配があるなど。二極化に関する影響。
- **意識改善**・・・男性は仕事、女性は家庭。長時間労働は仕方がない。障害者は雇用しにくい。事情のある人材は雇えないというような意識を改革し、多様な人材が活躍する社会を目指すもの。

それぞれ取り組まないとうなるか

○個人

- ・仕事と家庭の両立が困難。
- ・自己啓発や社会参加が困難。
- ・長時間労働、悪辣な環境により心身の健康が損なわれる など。

○企業

- ・人材不足、人材獲得の激化。
- ・優秀な人材の流出。
- ・労働者の心身の悪化。
- ・企業イメージの失墜 など。

○社会

- ・労働者不足の深刻化。
- ・生産性・活力の衰退。
- ・少子化の進行。
- ・地域とのつながりの減退 など。

② 人生単位で考えてみる。

内閣府ホームページに掲載している「仕事と生活の調和」の定義(憲章文引用)は、
「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」
となっている。(引用：内閣府 HP <http://www.cao.go.jp/wlb/towa/definition.html>)

私たちの人生は人によって様々なイベントが起こる。

結婚、出産・育児、介護、家族間のトラブルなどのプライベートなもの。昇進・降格、転職や退職、人事異動などの仕事面。自治会や子供会、PTA 活動のような地域等の活動。

自分の人生上、これからやりたいことや起こることを事前に予想し、仕事が生活を、生活が仕事を侵食しないように計画することも必要かもしれない。心がけ一つで「いざというとき」の対応につながるのではないかな。

③ 自分でできること、企業単位で取り組むこと。

○個人でできる工夫

- ・仕事のノウハウを勉強する。一部門の担当者として可能な限り、業務の改善を行う。
- ・仕事だけではなく、生活状況や家庭環境、地域とのつながりを含め、総合的な状況把握をする。 等

○企業単位でできる工夫

- ・社員の要望を把握し、労働環境の改善を計画、実行する。
- ・制度や労働意識が現状に合っているか見直す（無駄はないか、人事評価は現状に合っているか）。 等